

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回浅口市行財政改革推進懇談会		
開 催 日 時	平成27年3月20日（金）13時25分から15時30分		
開 催 場 所	浅口市役所消防機庫2階会議室		
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>【懇談会委員】 佐藤豊信会長・田口桂一郎副会長・大橋徳子・大室照明・奥慎二・ 金平剛一・川手公彦・佐藤正人・妹尾義信・守屋靖・山内悦子・ 尾崎照子</p> <p>【事務局】 秋田裕企画財政部長・高倉道雄政策課長・ほか政策課3人</p>		
傍 聴 の 可 否	傍聴可能	傍 聴 者 数	無
会 議 次 第	1 開 会 2 協議事項 1) 補助金について 2) 答申案について 3) その他 3 閉 会		
問 い 合 わ せ 先	企画財政部政策課 電話番号 0865-44-9013 〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中3050 e-mail seisaku@city.asakuchi.lg.jp		

事務局	<p>体補助では 2 割で明確化されていない。会計処理も 2 割弱で会計のチェックが不十分。効果成果のチェックも同じ。財政強化も少ない。以上のことから、明確化、チェック、自立促進が必要ではないかと考える。</p>
佐藤会長	<p>何か表について質問があるか。</p>
大室委員	<p>表の中で、ひがさき踊への補助金など、全く同じ事業で効果と財政強化で○がついているものについていないものがあり、おかしいのではないか。</p>
事務局	<p>本庁・支所で同じ事務でありながら統一できていない。</p>
佐藤会長	<p>大問題。行政として全く機能していない。見直し、大いに反省してもらいたい。市長がトップでしっかりやってもらいたい。合併する前はそうだったかもしれないが、もう 10 年。大きな問題だ。</p>
守屋委員	<p>交付要綱がある補助金事業が 40 事業とはどういう意味か。</p>
事務局	<p>事業に対して、独自・個々に要綱があるものが 40 事業。</p>
佐藤会長	<p>行政的権限の位置づけとして要綱が一番下。一貫して事業はどういう運用をされているのか。個々の要綱は、規則の体系の中におさまっているのか。</p>
事務局	<p>補助金等交付規則が基本。年間 1 回とかのものはこれを準用。要綱は事務処理基準。国・県の流れもあるが、単独のものは職員で検討していかないといけない。</p>
佐藤会長	<p>要綱をルールとして必要だが、旧町で基準が違うのは現場の要綱の運用がちがうのでは。</p>
事務局	<p>要綱の解釈が間違っはいけない。</p>
奥委員	<p>同じような種類の補助金があつて出るところが違う。一つにして要綱もひとつにすれば管理しやすいのではないか。</p>

事務局	<p>窓口が旧町ごとにまだあり、解釈の違いをなくすためには、横の連携必要である。窓口一本化は大きな話である。決裁権の問題も同様である。</p>
佐藤会長	<p>行政機構は決裁権限が明確でなければ、一貫した行政はできない。旧陸軍はむちゃくちゃだった。そうならないようなシステムをきちんと作っていただくのは非常に大事である。</p>
山内委員	<p>合併 10 年がくる。地区交付金、統一して当然である。今まで見直してないというのがすごくおかしいことである。子ども会も。公平さも大事だが、公正さも大事である。新しい基準示すべきである。</p> <p>10 年以上たってもできなかったのはいろいろ理由あろうが、市民の基礎情報として役に立つのではないか。</p> <p>補助金終期を書いてないのは、おかしい。スクラップアンドビルド。いったん始めたものやめるのは結構勇気がいること。やめるとすると反対もあろうし。でもそれでやっていたらなにもやめられない。大きな不幸を迎える前にシビアに対応。</p>
金平委員	<p>資料オープンにすれば。妥当かどうかはある程度期間を決めて検証を。4 項目が 100% にならなければ補助金出さないようにしたら。声の大きい人が得をするようではいけない。せつかくの機会なので、市民に訴えていけばいいのでは。新しいことできない。力を入れていくべきところに集中。効果が薄いところは、切り捨てじゃないけど、考えていく必要がある。</p>
山内委員	<p>補助金・補助率の根拠、基準がないというのは、主婦としてもおかしい。</p>
大橋委員	<p>各町で違う、活動内容がちがう。余ったお金で何か買おう、ということも聞く。子どもの事業大切。一律にすると、うんと活動しているところからはクレーム来るのでは。</p>
山内委員	<p>明確な基準が必要。</p> <p>基準だけではなく、より良い活動をしようと考えられるようになることが</p>

佐藤会長	大切である。
妹尾委員	子どもが減っている。子ども会の予算も削った。実情として、子ども会がやってない。こういうことをしたいから、これだけお金ください、という話を担当課としていきたい。
佐藤会長	少子化、子どものことに関しては役所が政策的なことを示し、やっていく必要がある。補助金なのか政策資金なのか。
田口委員	経過報告はとっているか。
事務局	とっている補助事業もある。多くは実績報告で確認をしている。
大橋委員	事業報告きちっと確認しなければだめ。市は。
佐藤委員	議会として、われわれも反省する部分ある。国・県の補助金は3年とか区切りがある。毎年の検証が必要だろう。
佐藤会長	みなさんのおっしゃるとおり。この資料、この後どうするのか。市報にのせるとか。それでどうするのかという話もある。答申としては「補助金のルールをつくってください。」としか書けないが、それからになるのか。
事務局	市民にも意識改革必要ということは加えたい。
佐藤会長	職員の中から「おかしい」というのが上がってこなかったのではないか。末端の職員のかかわりも必要。それが真の行革。市民も意識改革必要だが、職員も必要。このデータこのままではだめだろう。うまく要約して読んでもらいやすいようにして。
川手委員	地区交付金については、交付を受けたお金についてのみ報告している。地区の他のお金の使い道は報告していない。
田口委員	地区交付金、昔は納税組合があったが、違法ということでなくなった。あれよかった、税金も集まるし。文化協会、事務局業務金光は自前でやっている。寄島は教育委員会事

大橋委員	務局がやるとのこと。内容を、中を一つにしてほしい。行政側からも精査をお願いしたい。
佐藤会長	即答はできないだろうが、検討を。 【10分休憩】
事務局	配布資料をもとに地方創生について説明。
事務局	答申案について。今回の答申は、諮問の「スリムで効率的な財政基盤の確立（受益者負担の見直し）」と「スリムで効率的な財政基盤の確立（補助金制度及び補助金等の見直し）」についてのもの。 配布の答申案をもとに説明。
大室委員	地方交付税の具体的な数字。減額少なくなるなどの報道あるが、織り込み済みの数字か？
事務局	わからない部分多い。現時点の数字。
大室委員	十数億円のようにぼやかしては。 総務省の見解は7割。大幅な減額はないのか。
金平委員	大幅なではわからない。7割といわれてもわからない。11億といえど大きな金額だなあとなる。
尾崎委員	財源は税金。税金の収納は100%ではないと思うが、何%ぐらい？
事務局	手元に資料ないのでわからないが……。滞納分を担当課は苦勞している。悪質なものは滞納整理ということもやっている。
佐藤会長	市職員の意識改革について、 職員自らの能力アップ こそが重要。入れてほしい。
事務局	補助金の財源は市民の税金「等」で賄われており、とさせてほしい。 答申は大きな方向性であるので、大体これでよいと思うが、市の中で具体的にどう進めていくのか。

佐藤会長	行政経営会議で事業の洗い出し行おうと思う。答申に向かって事務の改善を行っていききたい。
事務局	気になるのはタイムスケジュール。示されていない。何をどこまでいつまでどのレベルまで、解決していくのかがないと。
佐藤会長	27年度1年かけて、検証、ヒアリング行い、28年度を目標に改革を進めていききたい。
事務局	スケジュールを決めて議会に出すなり、トップは市長だが、議会や市民の理解も必要である。
佐藤会長	2年前、他の自治体で行政の職員の能力アップの冊子作ったが、その後どうなったかわからない。職員も変わる。委員会が終わったとしても、委員長には仁義として報告に来てもいい。浅口市だけじゃない。作って終わり。行革も市長に答申して、大きな方向性だけ。いつ行革するのかという話になる。引き継いで行ける市になる必要がある。
事務局	スケジュール、28年度当初予算に反映できるよう。12月には締めるので、半年間で市民とも対話。職員の意識改革、施策マネジメントを行っている。優先順位や、担当事務だけでなく横のつながりも持つ。行革とのタイアップで、両輪でやっている。
佐藤会長	旧市町村でバラバラな部分、意志疎通を職員間でする必要はある。現場において十分な時間と対話が必要である。行政中でのスピードアップが必要である。どこまでのことをどうやっていくのか、明確にし、職員が共有し、市長と一緒に、スピード感を持って。
山内委員	公の施設、民営化や指定管理、「強く」検討するよう。金光ボランティアセンター、全然運営されていない。いつもしまっている。早めに民営化しないと。いっぱいある。「 早急に 」 職員の意識改革、当然のことだが、「発想の転換」とかいう文言入らないか。

守屋委員	行政サービスをよりよくしていくために。
佐藤会長	接遇。市民への窓口での応対。市民のためやさしく接する。分からないから聞いているのに頭ごなしに言われると市役所に行きたくなくなる。
山内委員	ろくに勉強していない職員だと、追い返してしまう。そういう現場の人けっこういる。 職員のレベルアップこそが最大の行革。
佐藤会長	その他で事務局から何かありますか。
佐藤会長	ありません。
事務局	耐震化している。市内ほかにも会場ある。寄島、金光いろんなどころを見ていただいたら。
田口委員	閉会したい。
佐藤会長	【閉会あいさつ】 前回会長から、書類を作ったりするにはコンパクトに、わかりやすいようにとのことなので、わたしもコンパクトに。これまでの議論を通じ、浅口市の将来にわたっての繁栄のためには、官民一体となって社会情勢など変化する環境に対応していかなければならない。
田口委員	